

静脩

1990年10月

Vol. 27, No.2

The Kyoto University Library Bulletin

京大のなかのダーウィン

理学部助教授 田 隅 本 生

学問の世界をかりに文科系と理科系とに二分するならば、図書や文献資料のもつ意味はこれらの二大分野でかなり違うようである。理科系のなかでも、研究者が多く、競争の激しい領域では、情報源としても発表の場としても、学術誌が絶大な意義をもっている。しかし、掲載された論文はやがて急速に光を失っていくから、古くなった雑誌は抜け殻のようなものだ。書庫のスペースは非常な勢で増加する“用ずみ”の雑誌で埋めつくされることになる。単行本は、やはり“生命”が短いめか、研究資料としてはあまり重視されない。こうした領域では、古い図書や古典的な本を大切に作る気風が希薄だとしてもふしぎではない。

そのような状況のなかで、理学部動物学教室では最近、故駒井卓教授にちなむささやかな個人文庫が新設された。一見反時代的なように思われるかもしれないが、現代生物学のなかにも、昔の本や文献が価値をもちつづける領域が健在しているのである。(この文庫については、『理学部図書ニュース』の最近号でも紹介した。)

駒井先生と駒井文庫 駒井卓先生(1886-1972)とは、1921年から25年間にわたり理学部動物学教室の助教授、ついで教授をつとめ、動物分類学、

遺伝学、進化学を専攻した人である。クシクラゲ類などの海産無脊椎動物の系統分類に携わる一方、大正の末にショウジョウバエを実験対象とするメンデル/モーガン流遺伝学を米国のコロンビア大学から京大へ移入し、わが国に広めた先駆者だった。後年には、進化学の立場からヒトの遺伝学の発展にも力をつくされた。そのかたわら先生は、太平洋戦争終結の前後2年間、理学部長として困難な管理運営に当たり、1946年に定年退官された。3年後には、新設された国立遺伝学研究所の生理遺伝部長に就任、70歳までその基礎固めのために努力された。かよわい体質に似ず、その時代のきびしい国情の下では考えられないほど多方面にわたって、大きな足跡を残されたのである。

先生は厳格謹直でありながら、きわめてリベラルな無教会主義クリスチャンだったこと、人々の信望が厚く、異例に多数の門下生を育てられたこと、公人として欠けるところが一つもなかったことなどが、今では伝説のように言い伝えられている。要するに、研究者としても、教育者としても、管理者としても、抜きん出た人物であった。

ところで、1986年5月の駒井先生の生誕百周年の機会にご遺族の駒井善雄氏より、同氏の費用負

担で新しい図書を動物学教室へ寄贈したいというお申し出があった。これは、図書費不足が常態化しているこの教室としては望外の朗報だった。

教室図書委員会では、駒井先生の専攻分野だった系統分類学や進化学を中心として、将来ながく価値を失わないと思われる約120冊の本（酸性紙禍でぼろぼろになった本の再購入を含む）を選定・発注し、まとめて「駒井文庫」とよぶことにした。図書室への本の受け入れはいまようやく終わったところである。経済学部の「上野文庫」などとは比較にならない小規模なものだが、この種の個人文庫は京大では珍しいのではないかと思う。

ダーウィンの本と全集 駒井先生は遺伝学の大部な専門書を3点出版されたほか、数点の啓蒙書を書かれた。そのなかに、『ダーウィン傳』（1933）、『ダーウィン傳』（1943）、『ダーウィンの家』（1947）、『ダーウィン——その生涯と業績』（1959）という4点もの評伝がある。チャールズ・ダーウィン（1809-82）とは、いうまでもなく、自然淘汰説またはダーウィニズムとよばれる進化理論を提唱したイギリスの博物学者である。同一人物の評伝を生涯に4回も著わすとは例のないことだが、専攻された分野はいずれも本来は進化論に直結するものであるから、先生が終生ダーウィンに固執されたのはしごく自然なことだった。先生は少年時代以来「親戚が何かのような気がする」ほどダーウィンに親しんでおられた上、最初に師事された動物学者は、明治から大正にかけてわが国に進化論を浸透させた丘淺次郎（東京高等師範学校教授）だったのである。

このようにダーウィンにゆかりのある「駒井文庫」に新しい「ダーウィン全集」全29巻（*注）を取り入れることができたのは、幸運な巡りあわせだった。教室内で図書選定をしていたのと同じ時期に、ロンドンのピカリング社からこの全集が刊行されていた。

ダーウィンの進化理論は主著『種の起原』（1859）で発表されて以来たえずさまざまな議論の的にされてきたのだが、とくにここ20年ほどは、彼の業績や生涯を多くの角度からとらえ直す仕事がかんに行われるようになった。その影響はわが国に



図1. 邦訳「ダーウィン全集」。全8巻9冊、合計約5,700ページ。教養部生物学教室に同じセットがある。（白揚社、東京、1938-40年）

も色濃く及んでおり、生協書籍部の生物学書のコーナーを一見するだけでもそのことがわかる。京大との関係では、今西錦司名誉教授の“反ダーウィン説”が有名である。こうした趨勢のなかでは、しっかりした全集への需要が大きいのは当然なのかもしれない。

外国でダーウィンの著書（原書や復刻）が出版された歴史はなかなか複雑で、全貌をつかむのは容易でない。そのなかで、『種の起原』など一部の主著だけは個別に出版されたり、あるいはペンギン・ブックスなどの叢書に入れられ、いつでも入手できるらしい。しかし全集（または選集）となると、今世紀初期にロンドンのジョン・マレイ社から出されたものは完全ではなかった上、古書としても入手が困難になっていた。わが国では、1938-40年に白揚社から「ダーウィン全集」（8巻）が出されたことがあるが、主要な8点だけを選んだものだった（図1）。1950年ごろには改造社で意欲的な「ダーウィン全集」が企画されたものの、予定された全17巻のうち約半数が刊行されただけで未完に終わった。

これら往年の全集はいずれも、どちらかといえば一般読者むけの感があったのに対して、ピカリング社の新全集はダーウィンの全著書を収め、合計約9,300ページにも達する専門研究者むけのものである。『種の起原』は、最も重要とされる初

版(1859)と第6版の最終刷(1876)がともに収録されている。

京大にあるダーウィンの著書 ダーウィンの著書の数はいずれの方法によって異なるのだが、大きくまとめるとほぼ20点内外になる(表1)。これらのうち、わが動物学教室図書室に所蔵されていたのは12点19冊(異版の重複を含む)の原書だけだった。肝心の『種の起原』は1冊もなかった。かつて駒井先生のような大家がおられたわりには、ふしぎなほど不備だったわけである。ここに新全集が加わって合計48冊にのぼり、遅ればせながらダーウィンの全著作が備わることになった。

しかし全集を買う以上は、大学全体に同著者の本がどれほどあるのかを知っておく必要がある。もし京大にほとんどの著書があるのなら、新全集を購入することの意義は小さいことになる。そこで、附属図書館の蔵書カードで調べてみたところ、じつに意外なことがいろいろとわかってきた。

ダーウィンの著書(洋書)は、新全集を入れると、多数の異版の重複を含めて全学に221冊(分冊されたものも1タイトルを1冊とみて)もある。ただし著しい偏りがあって、『種の起原』の合計42冊が最も多く、『人間と動物の表情』の21冊、『人類の由来』の20冊などがこれに次ぐ(表1)。文字通りの冊数では、総計252冊にのぼる。

受け入れ時の登録では、これらが薬学部を除く全学部、教養部、人文研、霊長研、および附属図書館にわたる37ヵ所もの図書室に所蔵されたことになっている。法学部図書室、文学部倫理・地理・英文、医学部内科・耳鼻科・小児科、さては工学部建築などにまである。理学部数学教室に11点もあるが、これらは科学史上の名著の復刻版シリーズの一部として近年購入されたものである。

文学部西洋哲学、法学部、経済学部、医学部解剖には19世紀中に出されたドイツ語訳ダーウィン全集(全16巻、シュヴァイツァーバルト社刊)、

表1. 京大にあるダーウィンの著書(洋書)の部局別所蔵冊数 (1990年8月現在)

著書名	図書館	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	工学部	農学部	教養部	人文研	霊長研	合計
Diary of the Voyage of H.M.S. Beagle							2		1	1			4
Journal of Researches in Geology and Natural History, Parts I, II.	1	3		1	1	5	1		4	2	1		19
The Zoology of the Voyage of H.M.S. Beagle, Parts I, II, III, IV, V.						1							1
The Geology of the Voyage of H.M.S. Beagle, Parts I, II, III.		1				4			3	1			9
The Foundations of the Origin of Species		1			1	1	1		1				5
A Monograph of the Sub-class Cirripedia, Vols. I, II, III.						4							4
A Monograph on the Fossil Lepadidae or, Pedunculated Cirripeds of Great Britain.						1							1
A Monograph on the Fossil Balanidae and Verrucidae of Great Britain.						1							1
On the Origin of Species by Means of Natural Selection, or the Preservation of Favoured Races in the Struggle for Life.	1	4		1	2	3	1		2	1			15
The Origin of Species by Means of Natural Selection, or the Preservation of Favoured Races in the Struggle for Life (6th ed.).	5	1			1	3	2		4	11			27
The Various Contrivances by Which Orchids Are Fertilized by Insects.		1			1	3	1		3		1		10
On the Movements and Habits of Climbing Plants	1	1			2	3	2		3	1	1		14
Variation of Animals and Plants under Domestication, Vols. I, II.		2		1	1	4	3		4	1	1		17
The Descent of Man, and Selection in Relation to Sex, Parts I, II.	1	3		1	2	3	2		3	2	1	2	20
The Expression of the Emotions in Man and Animals.	1	2	1	1	1	3	6	1	2	1	2		21
Insectivorous Plants	1	1			1	3	2		3		1		12
The Effects of Cross and Self Fertilization in the Vegetable Kingdom		1			1	1	2		3		1		9
The Different Forms of Flowers on Plants of the Same Species		1			1	2	2		1	1	1		9
The Power of Movement in Plants.		1			1	2	1			2			7
The Formation of Vegetable Moulds Through the Action of Worms with Observations on Their Habits						3	1		3		2		9
The Autobiography.		2			2	1	2						7
合計	11	25	1	5	18	53	29	1	37	26	13	2	221

注: 分冊されていても1タイトルを1冊と見なす。独訳書と仏訳書を含む。*は『種の起原』第1~第5版および第6版。

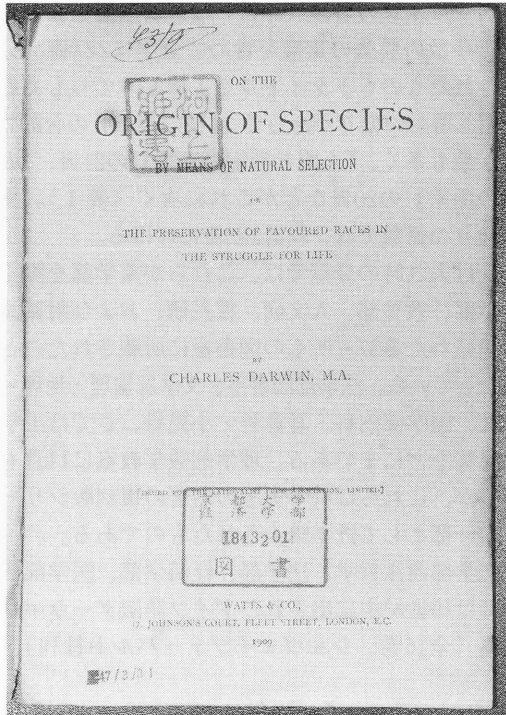


図2. 「河上蔵書」の朱印が押された『種の起原』初版リプリント版（ウォッツ社、ロンドン、1909年）のとびら。紙装本で、背はひどくすり切れている。明治43年9月購入か。（経済学部「河上文庫」）

仏文や図書館にはフランス語訳『種の起原』があることも驚異的だ。経済学部にある『種の起原』初版はなんと「河上文庫」の1冊で、故河上肇教授の蔵書だったものである（図2）。

他方、ダーウィンの本の所蔵が多くあってもよいはずの自然史系分野を含む他の教室・施設等では、これまでの動物学教室以上に貧寒なのである。燈台もと暗し、医者の不養生とはこのことだ。

ダーウィンの著作の邦訳書は京大全体で67冊あることになっている。これらの和書の大半は理科系教室や教養部に所属しており、洋書のように全学的に分布していないことは何事かを暗示している。邦訳の全集では、教養部生物に白揚社版が1セット（もと三高の図書）、農学部昆虫に改造社版の不完全セットがあるだけらしい。

『種の起原』の邦訳は1896年以来、第6版または初版の少なくとも15種の日本語版としてさまざまな出版社から出され、現在は2種市販されている。そのうちの12の版が京大内に散在しているようである。

ダーウィンの本の分布状況がわかれば、彼に匹敵するような大学者の著書が京大にどれほどあるのだろうか、という疑問がわいてくる。附属図書館のカードを一べつしたところでは、ニュートンやアインシュタインの本はダーウィンとほぼ同程度、カント、ヘーゲル、マルクスなどの著書は実に莫大な数にのぼる。しかし所蔵場所では、これらの人々の本は数物系、哲学系、社会科学系というようになんかなりはつきり偏在している。

一つの総合大学の大半の部局にわたってその著書が収蔵されているような学者は、ダーウィンのほかにないのではなかろうか。そのことには、彼の研究が自然と人間にわたる広大無辺の領域をおおっていたという事実が、漠然とであれ反映していることは疑いがない。彼の本がかつては文科系でも注目された主因はおそらく、自然淘汰によって人間社会の進化を説明しようとする“社会ダーウィニズム”が明治の中期以降わが国でも流行したことにあるのだろう。だがそれだけではなく、彼の学説や哲学が人間の本质について物語るものの意義を、かつての大学人たちが直感していたのではないだろうか。社会ダーウィニズムはやがてすたれたが、ダーウィンの本は、今日でも未解決の問題を限りなく提起しつつ、人間の意識に生物進化の観念を植えつけるという空前の仕事をしとげた。

並び称されることもある、19世紀のもう一つの革命的な本がその役割を終えることがあっても、『種の起原』はタマムシのように、視角によって異なる光彩をいつまでも放ちつづけようである。

* 注) *The Works of Charles Darwin*, 29 Vols., ed. P. H. Barrett & R. B. Freeman, Pickering & Chatto (Publishers) Limited, London, 1986-89.

黒田梁太郎寄贈図書について

教養部助教授 松 田 清

昭和62年5月から6月にかけて、江馬本、新宮本、高橋本、山脇本等、本学附属図書館所蔵貴重蘭書の書誌調査を行ったことがある。その際、新宮本の中にまぎれ込んでいたフランソワ・ハルマ編『蘭仏辞典』第二版を偶然手に取ることができた。この辞典の第二版は幕末蘭学の発展に大きく貢献した蘭和辞典「ドーフ・ハルマ」の底本となったことで知られる。標題紙には「黒田梁太郎寄贈本」（下線部墨書）の印、口絵の右下には「澹寧斎珍藏」の朱印が見られた。黒田梁太郎の名は筆者にとってこれが初めてであった。

同じ第二版でも、香川大学神原文庫の鹿田文平旧蔵本¹⁾、静岡県立図書館葵文庫の楢林重兵衛旧蔵本が蘭学者や通詞の刻苦をしのばせるのに対し、これは羊皮装の美本で、あまり使用された形跡がない。文字どおり珍藏されていたのであろう。小野則秋の『日本の蔵書印』によれば、頼山陽の外祖父で、大阪の儒者であった飯岡義斎(1717-1789)に「澹寧斎図書記」の印がある。およそ蘭学史に名前を出てこない義斎が、どのようにしてハルマ『蘭仏辞典』を入手したか、その経緯を是非知りたいものである。

寄贈者の黒田梁太郎については、『適塾門下生調査資料第Ⅰ集』²⁾（適塾記念会、昭和43）により、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の本邦初訳として名高い「漂荒紀事」の訳者で、膳所藩の洋学者黒田翔廬(1827-92)の子であることを知った。受け入れ年月日が昭和2年5月16日とあるところから、さっそく図書原簿でこの日付の箇所を調べると、貴重書のハルマ『蘭仏辞典』をふくめて22点の洋書がまとめて寄贈されていることが分かった。いずれも翔廬の旧蔵書と思われたが、現物に当たる余裕はなく、著者別カードでそれぞ

れの請求番号を調べておくに留めた。貴重蘭書の調査を優先させたのだった。

同年暮れ、黒田翔廬の研究者平田守衛氏より、翔廬生誕160年を記念して自費出版されたご著書『黒田翔廬の業績と漂荒紀事』の寄贈を受けた。拝読したところ、「漂荒紀事」の原書を「ドイツ人カンペの簡約版、そのオランダ訳」とされていた。そこでオランダより当該書を取り寄せて検討したが、残念ながら原書とは認められなかった。昨年4月より1年間、「ドーフ・ハルマ」成立史研究のためオランダに滞在できたので、余暇を利用して原書探しを行った。種々のオランダ語訳を検討した結果、翔廬はオランダ語版簡約本を翻訳したのではなく、18世紀にアムステルダムで出版された全訳オランダ語版（初版1720-22、第二版1721-22、第三版1735-36、第四版1752、いずれも三巻三冊で本文同一）の第一巻を自分自身で漢文調に簡約したことが判明した³⁾。

現在、自筆草稿である「魯敏孫漂荒紀事」[貴重書4-53-ロ-1]とオランダ語原文とを対比研究する作業を進めながら、並行して「漂荒紀事」（嘉永三年頃成立）以前に翔廬が訳した、「博物地理編」「博物分析編」「泰西楊世夫伝」（いずれも「漂荒紀事」中に言及あり）「初学窮理抄」の行方を探索している。翔廬の西洋理解とオランダ語力の発展を跡づけたいからである。しかし、黒田梁太郎寄贈図書の内容が不明であるため、これら訳稿の発見は困難を極めている。大正15年6月19日、国語学者亀田次郎（当時大谷大学）は京大文学部の新村出博士、滋賀県史編纂主任牧野信之助とともに黒田梁太郎宅で、翔廬関係資料を調査し、『芸文』17巻9・10号（大正15年10月）に「黒田翔廬の業績及其著書」を発表した。吉野作

造の「海外新話と漂荒紀事」(書物往来、大正15年4月号)に、「最近大阪の荒木幸太郎君は、自ら膳所に黒田家の遺族をたづね、更に麴廬先生の面目を明らかにすべき多くの新材料を得たと聞いて居る」とある。これによれば荒木幸太郎は亀田次郎より一足早く黒田家を調査しているが、その研究成果は寡聞にして知らない。

亀田次郎は報告の中で「嗣子梁太郎氏は此の上の散逸を恐れ、現存の書籍全部を纏めて、京大図書館へ寄贈される事にせられた。誠に結構な事である。」と述べている。この報告(大正15年9月24日稿)によれば、当時黒田家にはつぎの著述および関係資料が存在した。ただし上記ハルマ『蘭仏辞典』など22点の洋書については、写本の *Volks-Naturkunde* (ママ) をのぞいて言及がない。

(1)由緒書 [麴廬日記]、(2)初学窮理抄、(3)文久二年蕃書調書出仕関係書類、(4)利慶薛陀三喜多引 [全29冊の内9冊欠]、(5)榜葛刺文典 [全9冊の内1冊欠]、(6)東本願寺訳文局退職願、(7)願書 [滋賀県令籠手田安定あて印度学興立につき]、(8)漂荒紀事、(9)天象新説、(10)地学大旨、(11)西洋星象名義解、(12)氷海航記、(13)新暦明解、(14)線形図解、(15)万国商売往来、(16)西洋料理新書、(17)魯敏孫漂航記事、(18)梵字書、(19)梵英文典、(20)梵天聖語アリアン系、(21)平等時常用比較表 [版木とも]、(22)達通館配合西洋暦 [版木とも]、(23)改正商売往来、(24)佛語字彙原書書写 [Eitel 梵語字書の訳本]、(25)著述目録、(26)蔵書目 [安政三年丙辰八月十日現在]、(27)課業日乗 [安政元年より明治二十五年の没年までの日記]

このうち、(8)と(17)および(5)と(19)はそれぞれ同書異名と考えられるが、これまでに附属図書館で現存が確認されたものを、請求番号、登録年月日とともに挙げよう。

- (4) 利慶薛陀三喜多引 [1-27 頁 1]
昭和2年8月1日
- (5) 榜葛刺文典 [4-82 頁 1]
昭和2年8月1日
- (17) 魯敏孫漂荒記事 [4-53-ロ-1]
(タイトルは第二冊の題簽による)

昭和42年9月25日

(25) 著述目録(未整理本)

(4)と(5)は上記ハルマ『蘭仏辞典』と同じように「黒田梁太郎寄贈本」の印記を持つが、(17)はこの印記を持たず、寄贈本扱いされていない。(25)は「永順寺印」の朱印がある「利慶薛陀三喜多引」(46冊存、未整理本)のなかにまぎれ込んでいたものである。後者の46冊本は亀田報告に言及のないもので、寄贈本の中に含まれていたものと思われる。これについては(4)とあわせて、現在、大谷大学図書館の渡辺顕信氏が「大谷大学所蔵本との比較検討を進めておられる⁴⁾。なお、(24)の原書は、Eitel, E. J., *Hand-book for the student of Chinese Buddhism*. London, Trübner, 1870. であろう。

平田守衛氏のご著書がきっかけとなり、黒田梁太郎の孫に当たられる奥村秀一氏宅に、(26)「蔵書目」、(15)『万国商売往来』(明治六年刊)、さらに亀田報告では未確認の『政体新論』(明治七年刊)が、また同じく水口清隆氏宅に、(27)「課業日乗」(「訳業日乗」が正しい)がそれぞれ伝存することが分かった。筆者が去る6月13日奥村秀一氏宅を訪ねた際、文久二年(1861)オランダに留学した西周助がライデンに到着後間もなく、また津田真一郎がインド洋上から洋書調所の同僚である黒田行次郎(麴廬)に書き送った書簡各一通が新たに見つかった。これは亀田報告に言及がない。その他の麴廬関係資料については、(3)の一部をのぞいて行方が分からない。実際に寄贈された図書資料はどれだけあったらうか。

筆者が特に出現を望んでいるのは、亀田報告に題言が引用されている「初学窮理抄」である。題言によれば、弘化二年八月猛暑のため適塾が夏休みとなって膳所に帰省中に、「藩医山元氏所蔵ノナチュルキユンデ」を借りて読み、翻訳したという。この原書は、亀田報告に「西暦千七百六十八年(我明和六年)出版英国龍動欲預軒特烈機名。烏殷怯勒膚姓撰和蘭欲預禮由羅敷斯譯」とあるところから判断して、Winkler (Johan Hendrik), *Beginselen der natuurkunde. Naar den tweeden verbeterden Hoogduischen druk vertaald*. Amster-

dam, J. Lovering, 1768. xx, 797p. 8°. とされる。平田氏は「初学窮理抄」の原書を Volks-Naturkunde (ママ) とされている。亀田報告に「初学窮理抄 Volks-Naturkunde 写」とあるのを、そのまま踏襲されたようだ。藩医山元氏とは佐藤栄七増訂『日本洋学編年史』の文政七年(1824)に、『瘍医必要』の撰者として名が見える山元周輔であろう。周輔は長崎に遊び、通詞吉雄権之助の教えを受けた。吉雄権之助は「ドゥーフ・ハルマ」の成立にもっとも貢献した優秀な通詞である。『国書総目録』によれば、『瘍医必要』の写本は静嘉堂文庫と九州大学にあり、原著者は「採馬私私古焉丘」、山元道誠とある。原書は18世紀オランダの医者 Thomas Schwencke (1694-1767) の Schets der Heelmiddelen en hare uitwerking op het lighaam. 's Hage, Rotterdam, 1753. とされる。山元道誠については、京都市立西京商業高校平野文庫の写本「究理大成空気論」に「咽蘭 究理学者 ヘンヤミンマルチン著／皇国 江州膳所医員 山元周輔道成訳」とあるところから、同一人物と思われる。「究理大成空気論」は Benjamin Martin, Filosofische onderwyzer of algemeene schets der hedendaagsche ondervindelyke natuur-kunde. (第二版1744、第三版1766、いずれも Amsterdam 刊) の第3部第1章の翻訳(ただし未完)である。このような訳業のある藩医山元周輔の存在は蘭学生行次郎の勉学意欲を掻き立てたにちがいない。

麴廬の父黒田扶善(または善、号梁洲)若い頃蘭学に志し、文政五年(1822)に蘭法医小森桃塢に入門した⁵⁾が、父兄の反対にあい、後に藩儒となった人物で、蘭学への理解も深かった。麴廬は天保十四年(1843)、十七歳で適塾に入門したが、これは息子に青春の志を継がせようとした父の命令によるものであった。奥村秀一氏所蔵の「梁洲文稿」(写本1冊)には、梁洲が愛児の翻訳に寄せた「訳夷史楊世夫伝序」(嘉永紀元十月)と「博物新志序」(己酉六月)が含まれている。己酉は嘉永二年(1849)に当たる。後者には「家児舞勺にして能く駄舌を操る、蛮籍を読む毎に、輒ち奇異を抄りて、竟に此冊を成す」(原漢文)とある。舞勺の年は十三才を意味する。山元周輔に

ついて習わせたのだろうか、大変な熱の入れようである。黒田梁太郎寄贈洋書のなかに、「黒田善印」という蔵書印を持つ蘭書の筆写本(後掲書目No12)が見られることから、梁洲自身オランダ語が出来たかも知れない。前者の序では「楊世夫伝」を「乳臭の筆、大方に示すに足らず」としながらも、梁洲は子の訳業を弁護し、「方今一種の読書人霊台狹隘なり、我が尚する所に非ざるの書、一切これを斥け、罵りて夷と為し妖と為す、(中略)夷の善行或ひは以て吾が頑情を起こすべし、其の技工或ひは以て吾が遺闕を補ふべし、然らば則ち一切これを斥くるは、豈君子の学ならんや」(原漢文)と当時の蘭学弾圧の流れに抗議している。「舞勺」「乳臭の筆」という表現から、「初学窮理抄」は麴廬の処女作ではなく、それ以前、遅くとも適塾入門以前に、「楊世夫伝」と「博物新志」が出来上がっていたことが分かる。

『国書総目録』にある「摘訳兩種」(黒田善行訳、写本一冊、宮内庁書陵部所蔵)は調査の結果「ニーエケウル」「博物新志」を含み、前者は Nieuwe keur van nuttige en aangename mengelingen, jaarg. 1828-41. Amsterdam, J. C. van Kesteren. という隔月刊の雑誌であること、善行は麴廬の別名であることが判明した。萩藩医久坂玄機(玄瑞の兄)は適塾時代、嘉永元年正月に大阪滞在中の通詞からこの原書を購入し、正月十七日付の両親あての手紙で、入手の喜びをつぎのように伝えている。「『ニューエケウル』と申書九冊外に三本合して拾式冊、代金拾五両余に相成候、『ニューエケウル』は西洋諸邦之英主豪将之伝、所々之合戦及諸国之地理及日本之地理物語等も詳に相見候、始め左程之物とも不考候所奇々妙々、頃日に至り而誠に愉快至極、仰天仕候、此書昨年新渡に而、六十州中別に無之、当時無双之好書と相誇申候」と⁶⁾。「九冊」とあるのは Brinkman's catalogus van boeken 1833-1849. に1833-1841刊とあるように、この9年分が発行年別に製本されていたためであろう。「当時無多六好書」の原題は「新選趣味と実益」とでも訳せよう。その内容はフランスの新聞雑誌の記事を翻訳編集したものである。凡例によれば、「ニーエケウル」は「漂荒紀事」完

成後の翻訳で、麴廬が江戸遊学中の嘉永五年春に成ったものである。「博物新志」の原書は不明であるが、「博物地理篇」「博物分析篇」と密接な関連があると思われる。

百点を越える麴廬の著訳のうち、生前出版のものは23点に過ぎず、その他はほとんどが散逸し、現存が確認されていない。なかでも「著述目録」に「畢氏経済新書 二百枚」とあるものは、ライデン大学で西周と津田真一郎を指導したS. フィ

ッセリングの経済学書の翻訳と思われ、伝存を祈るばかりである。この訳稿まで探索する余裕がなく、当面は「初学窮理抄」から「漂荒紀事」に至る翻訳の実態解明を更に進めたく思っている。

最後に、「黒田梁太郎寄贈本」の印がある洋書（写本を含む）について、これまで報告がないようなので、簡単な書誌を掲げておこう。〈 〉は印記、[] は請求番号を示す。

黒田梁太郎寄贈洋書目録

1. Quetelet, A. 17.4×11.3cm. [VII-2-Q-2]
Sterrenkunde. Naar het Fransch van A. Quetelet. Middelburg, De Gebroeders Abrahams. 1854. IV, 130, (4)pp.
〈長崎東衛官許〉、「妙福寺」と墨書した附箋挿入される。
2. Nieuw Nederlandsch magazijn, ter verspreiding van algemeene en nuttige kundigheden. 1851. Opgehelderd door 230 fraaije Afbeeldingen. Amsterdam, Gebroeders Diederichs. (iv), 416 pp.
29.5×20cm. [X-6-N1-別]
各ページ二段組。附箋挿入箇所：p. 36, p. 129, p. 193, p. 200, p. 224, p. 399.
3. Martin, H. 17.4×12cm. [III-5-M-7]
Beredeneerd Nederduitsch Woordenboek. Amsterdam, H. Moolenijzer. XX, 904, 44pp.
〈長崎東衛官許〉。
4. VOLKS-NATUURKUNDE || Of || Onderwijs in De Natuurkun- || de voor mingeoefenden; || tot wering van || Wanbegrippen, Vooroordeel || en Bijgeloof. || uitgegeven door de || Maatschappij: || Tot nut van 't Algemeen || (vignet) || te Amsterdam, bij || corns. de Vries, hend ^k. van Munster en Zoon || en || johannes van der heij. || 1811.
写本。和紙の横罫紙（20界）に墨書。袋綴じ。3冊。朱筆訂正あり。
第一冊：143丁（内122丁は丁付あり）。22.4×16cm。
第二冊：89丁。赤通し多し。22.6×16.1cm。
第三冊：51丁。 23.3×16.4cm. [VII-0-V-2]
5. Leesboek voor de scholen van het Nederlandsche leger, bevattende korte verhalen uit de krijgsgeschiedenis, bijzonder die van het vaderland. 's Gravenhage, Gebroeders Belifante. 1845. 69pp.

19×11.5cm. [III-5-L-2]

和刻本. 表紙貼紙の印刷タイトルは「西洋武功美談 和蘭文」.

6. Kramers, J. 23.1×15cm. [V-1-K-2]
Geographisch- statistisch- historisch handboek, of beschrijving van het wetenswaardigste uit de natuur en geschiedenis der aarde en harer bewoners. Gouda, G. B. van Goor, 1850. 2dln. 1 ° deel : cxx, 644 pp. 2 ° deel : VIII, 715pp.
二巻ともに、〈長崎東衛官許〉、〈膳所会議局印〉の朱印あり。赤表紙。大項目主義、第二巻の挿入紙に「Flouve odorante 芬香ノフロウ他」の墨書あり。
7. GEOGRAPHICAL DICTIONARY.「地名辞典 和蘭語」 23.3×14.5cm. [IX-1-U-1]
原標題紙、巻頭、巻末を欠く。現存約800ページ。各ページ細字二段組。周囲一部焼失。装丁、標題の「GEOGRAPHICAL DICTIONARY.」(墨書)ともに後世のもの。調査の結果、本書はKramers(J. Jz.), Geographisch woordenboek der geheele aarde. Gouda, G. B. van Goor, 1855. XXIV, 994 pp. と判明した。
8. Konst om wonden te schouwen, en over derzelver doodelykheid te oordeelen, kortelyk verhandelt volgens de ware huishouding onzes lichaams. 367, (13) pp.
標題紙欠落。18世紀刊。仮綴本。遊び紙に「膳所藩 平田迂好藏」の墨書あり。
18.4×12.3cm. [VII-7-K-28]
9. Gelder, Jacob de 8.3×11.5cm. [VII-1-G-3]
Allereerste gronden der cijferkunst. Eerste deel. Zesde druk. 's Gravenhage, Amsterdam, Van Cleef, 1847. XXIV, 176, (3) pp.
〈長崎東衛官許〉、〈蕃書調所〉、〈ホ〉、〈文久辛酉〉。Tweede deel (XII, 228 pp.)及び次のものと合冊。
Antwoorden op de rekenkundige vragen, voorkomende in de Allereerste gronden der cijferkunst, door Jacob de Gelder. Uitgewerkt door G. Ramakers. Herzien naar den zesden druk der Cijferkunst, door J. S. Speijer. 's Gravenhage, Amsterdam, Van Cleef, 1849. 91 pp.
附箋挿入箇所：Eerste deel, p.130/131, p.138/139, p.140/141, p.156/157. Tweede deel, p.174/175. Antwoorden, p.36/37.
10. Anslijn, N. 16.1×10cm. [IX-A-2]
Natuur- en aardrijkskundige mengelingen, ter bevordering van algemeene kundigheden, ter dienste der scholen. Eerste stukje. Achtste druk. Leyden, D. Du Mortier en Zoon, 1852. IV, 127 pp.
〈長崎東衛官許〉、書店ラベル「Boekhandel / van / M. J. VISSER / Vlamingstraat. S. N°=133te / 'S GRAVENHAGE.」あり。Tweede stukje (5de dr., 1854, 111pp.)、Derde stukje (1836, 125pp.)、Vierde stukje (1837, 125pp.) と合冊。
11. The Earth and its Inhabitants. Common-school Geography. New York, Charles Scribner & Compagny, 1867. Guyot's Geographical Series. No. II. (iv), 147pp. 31×25cm. [IX-0-G-4A]

12. Geerling, L. F. en J. J. H. Urbain 24.1×16.5cm. [VIII-8G-2]
 BLIK || op de militaire || zamenstelling en sterkte || der onderscheidene staten van || Europa en andere werelddeelen; door de kapiteins || L. F. Geerling en || J. J. H. Urbain. || (...) || te Arnhem, by || D. K. muller en Comp. || 1830.
 写本。51丁。和紙(有界)に墨書。〈黒田善印〉(陰刻陽刻の二種)、〈洋〉。
13. Seydlitz, Ernst von 22.5×13.8cm. [IX-1-S-2]
 Handboek der aardrijkskunde. Amsterdam, Gebroeders Binger, 1860. VII, 248pp.
 Voorrede および Deutschland (p.15)、Noord-Amerika, Middel-Amerika (pp.22-23) 項目に赤通しあり。裏見返しに「1852. / Nederlandsch Magazyn / bl. 10-13. / pag. 13-104 」とペン書きあり。
14. Bomhoff, D. 17.5×13cm. [III-5-B-13]
 Volledig Nederlandsch-Engelsch & Engelsch-Nederlandsch zakwoordenboek. I. deel. Nederl. -Engelsch. Tweede druk. Arnhem, D. A. Thieme. (vi), 506pp.
 〈横浜弁天通/九十三番/ハルトリー〉。次のものと合冊。
 Complete Dutch-English and English-Dutch Pocket-Dictionary. By D. Bomhoff, Part II. EnglishDutch. Second Edition. Arnhem, D. A. Thieme. 536pp.
15. Van der Maaten, E. 23.1×14.3cm. [VI-9-V-3]
 Beknopte geschiedenis der Nederlanden, van den vroegsten tot op den tegenwoordigen tijd, ten dienste van gymnasiën en instituten. Amsterdam, Hendrik Frijlink, 1854. X, 291pp. 2 kaarten.
 〈長崎東衛官許〉。ペン書で「 Aan den achtbare heer C. d. R. Kuroda. uwe friend 1866 C. V. kanda. 」の献辞あり。表見返しに「 Boekhandel / van / M. J. VISSER / Vlamingstraat. S. N°=133te 's GRAVENHAGE. 」の書店ラベル。裏見返しに「会場散士 飯笹春文」の墨書。
 献辞の C. d. R. Kuroda, C. V. kanda はそれぞれ、Coodsiroo Koeroda (黒田行次郎)、Coo Vei kanda (神田孝平) と読むことができる。慶応元年(1865)、ロシアに留学する市川文吉を激励して開成所の教官たちが書いた、いわゆる『幕末洋学者欧文集』(山岸光宣編, 昭15)を見ると、黒田行次郎は「Koeroda Coodsiroo」、神田孝平は「C. F. Canda」と署名している。
16. Staatsalmanak voor het Koninkrijk der Nederlanden. 1862. 's Gravenhege, Martinus Nijhoff; Utrecht, J. G. Broese, 1861. XIV, 601pp.
 〈膳所会議局印〉。口絵に「 Vergaderzaal der tweede kamer van de Staten-Generaal, gezien van de openbare tribune. Zitting 1861-1862. 」と題する見開きの図解あり。標題紙に型押しスタンプで「 M^r. R. H. J. GALLANDAT / HUET 」とあり。 22.5×14.5cm. [II-8-S-2]
17. Strootman, H. 18.2×11.8cm. [VII-1-S-12]
 Gronden der beschrijvende meetkunst, voor de kadetten der artillerie en genie. 2de druk. Breda, Van Broese, 1847. 192pp. 9 platen.
 〈長崎東衛官許〉。叢書「 Wiskundige leercursus, ten gebruike der Koninklijke Militaire Akademie 」のひとつ。

18. Zeydlitz, Ernst von 21.2×14cm. [IX-1-S-1]
 Schul-Geographie. Größ ere Ausgabe des Leitsadens für den geographischen Unterricht. Breslau, Ferdinand Hirt, 1871. (iv), XXVIII, 304pp. <京都府図書印>、<大津師範学校>、<売却之證>、「第壹號」。裏表紙に「滋賀県師範学校蔵書票」あり。
19. Van der Burg, P. 18.5×12cm. [VII-0-V-1]
 Eerste grondbeginselen der natuurkunde, strekkende tot leesboek voor alle standen hoofdzakelijk tot zelfonderrigt voor jonge lieden, en tot handleiding voor onderwijzers. Derde, geheel omgewerkte druk. Gouda, G. B. van Goor. 1854. XII, 808, 32pp.
 <長崎東衛官許>。
20. Kramers, J. Jz. 23.3×15cm. [VIII-0-K-2]
 Algemeene kunstwoordentolk, bevattende de vertaling en verklaring van alle vreemde woorden en zegswijzen, die in geschriften van allerlei aard, in de taal der samenleving, in handel, bedrijf enz. voorkomen. Tweede verbeterde en vermeerderde druk. Gouda, G. B. van Goor, 1855. X, 1008pp.
 <長崎東衛官許>。1009ページ以降欠落。
21. Halma, F. [III-5-H-24]
 Woordenboek der Nederduitsche en Fransche taalen. Tweede druk. Amsterdam, De Wetsteins en Smith; Utrecht, Jacob van Poolsum. 1729. (xii), 1005pp.
 <澹寧齋珍藏>。見返しの貼紙に「ヨールデンブック子ーデルドイツ」、遊紙の貼紙に「法蘭西辞書／和蘭辞書」の墨書あり。
22. Mitchell's School Atlas: Comprising the Maps and Tables designed to accompany Mitchell's School and Family Geography. Philadelphia, E. H. Butler, 1865. 9 tables, 31 maps.
 31×25cm. [IX-1-M-7 別]

注

- 1) 拙稿「鹿田文平旧蔵ハルマ『蘭仏辞典』」、京古本や往来、第37号、昭和62年7月。
- 2) 黒田行次郎(麴廬)の資料作成者は中神天弓、作成年月日は昭和36年3月15日。
- 3) 拙稿「『漂荒紀事』の原書」、京古本や往来、第47号、平成2年1月。
- 4) 渡邊顕信「翻訳局と本邦初訳リグ・ヴェーダー東本願寺翻訳局の業績紹介」、大谷大学図書館報第6号、昭和62年5月。
- 5) 水原完「適塾と近江」、湖国と文化、第36輯、昭和61年。
- 6) 梅溪昇『緒方洪庵と適塾生』、思文閣出版、昭和59年、p.52。

(1990. 10. 24記)

CD-ROMによる検索サービス開始のお知らせ

8月下旬より、CD-ROM 出版物による検索サービスを開始いたしました。

CD-ROM とは、Compact Disk Read Only Memory の頭文字をとったもので、コンパクト・ディスクに各種情報を蓄積しデータベースとして検索を行なうものです。オンラインと違ってリアルタイムでの最新の情報を検索することは出来ませんが、何時でも何度でもアクセスが可能で、アクセスごとの使用料はかかりません。検索はメニュー方式のため、操作手順は画面が示してくれますので、是非お試しください。また、詳しくは掛員におたずねください。

利用時間、端末機の設置場所は次の通りです。

〈利用時間〉 平日 : 9時～12時、
13時～17時
土曜日 : 9時～12時
〈設置場所〉 1階参考コーナー

また、用意したCD-ROM 出版物は、次の通りです。

[日本語対応 端末機使用]

1. 朝日新聞全文記事情報(CD-HIASK 1989)
1989年の新聞記事全文と1986～1988年の索引が収録されています。
2. AURORA on CD-ROM : 青山学院大学蔵書目録
青山学院大学の創設時から1989年度までに整理を完了した図書資料約52万冊(和書31万冊、洋書21万冊)、逐次刊行物1万タイトルの書誌データがおさめられています。
3. 学術雑誌総合目録 CD-ROM 版
和雑誌、洋雑誌あわせて約15万タイトル、200万所蔵データが収録されています。
4. (電子) 広辞苑
『広辞苑』(第三版)に含まれている情報をそのまま収録しています。文字情報だ

けでなく、項目によっては図版や色の見本、鳥の鳴き声を聞いてみるができます。

5. 国文学研究資料館蔵 マイクロ資料目録 1988版

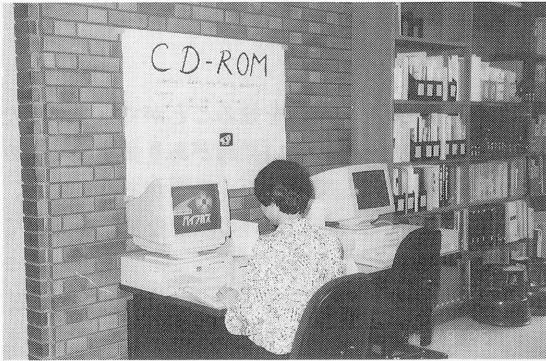
国文学研究資料館が収集した全国の大学・図書館等の目録で、冊子体の『国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録』に相当します。

[外国語対応(アルファベット) 端末機使用]

6. Books in Print Plus
米国の既刊、新刊本情報である『Books in Print』のCD-ROM 版です。
7. Ulrich's Plus
冊子体『Ulrich's international periodicals directory』のCD-ROM 版で、定期刊行物、不定期刊行物と年鑑等約14万件を収録しています。

以上のように目録等二次情報が主ですが、「1. 朝日新聞全文記事情報」は、全文データベースです。写真や図版はありませんが記事情報を全文収録しています。思い付いた言葉で検索ができ、一覧表示に出力された記事番号を入力して全文を出力することができます。「4. (電子) 広辞苑」は文字情報だけでなく、色見本や鳥の鳴き声が含まれており、今では聞くことができない鳥「とき」の鳴き声も楽しめます。「6. Books in Print Plus」と「7. Ulrich's Plus」は書誌情報を収録しています。これらのCDからは、データを取り込んで活用することができます。キーワード等で検索した結果をフロッピーにダウンロードし、研究者は研究テーマの文献リストを作成することができますし、また図書館にとっても自館の目録作成や、目録の遡及入力に利用することができます。

CD-ROM 出版物は、今のところ種類も少ないですが、今後は加速度的に増加していくものと思われます。音声や画像情報を取り込むことによ



て、今までの文字情報だけでは考えられなかった多くの展開が期待できます。同種の情報も、新聞原紙、縮刷版、CD-ROM、あるいは医学分野の抄録誌、冊子体『Index Medicus』、オンライン・データベース、CD-ROMのように多様な媒体で入手できるようになってきました。図書館として、どの媒体をどのように組み合わせて提供していくのか、多様な媒体を各々の特徴を生かして、複合的に整備していくことが重要になってきています。(参考調査掛)

館内オンライン検索の利用状況

1990年9月現在、附属図書館では目録室と参考図書コーナーにオンライン検索用端末8台を備え付け和洋図書、和洋雑誌の所蔵検索用に提供しています。

このシステムは1988年9月に開始しました。その後、1990年1月からは附属図書館のホストコンピュータのリプレースにともない、現在使用しているラップトップ型の端末機に変更になりました。台数も一挙に2倍の8台に増加しました。ラップトップ型はコンパクトで最新機種でしたので学生利用者には好評で1月当初はいつも満席の状況でした。

1990年9月からはテスト的に平日一時間の運用時間延長を行っています。現状ではデータ入力の手続きでカード目録を併用しないと全目録データの検索ができません。しかし来年度からは学部、研究所からの入力開始が予定されていますし、古いデータの遡及入力も計画されています。オンライン検索の立場から近い将来、より完全な全学総合目録データベースの構築をめざしています。(参考調査掛)

平成2年度 調査研究員の委嘱

平成2年度附属図書館調査研究員の調査研究員に、下記4名の教官が委嘱されました。

- 大型計算機センター：星野 聡 教授
調査研究事項：目録カードによる遡及入力の研究（継続）
- 大型計算機センター：金澤 正憲 助教授
調査研究事項：学術情報ネットワークの研究（新規）
- 文 学 部：御牧 克己 助教授
調査研究事項：チベット大蔵経の研究（新規）

以上、委嘱期間は平成2年4月1日から平成3年3月31日まで。

- 大型計算機センター：久保 正敏 助教授
調査研究事項：図書館資料情報のオンラインサービスの研究（新規）
- 委嘱期間は平成2年7月1日から平成3年3月31日まで。

T S S オンライン目録検索の利用開始について

1990年10月より、附属図書館のホストコンピュータに作られている本学の和洋図書、和洋雑誌の所蔵目録データベースを、附属図書館外の研究室等からも TSS (Time Sharing System) 用の端末で検索ができるようになりました。このようなシステムを、OPAC (Online Public Access Catalog) といいます。附属図書館では、すでに館内の利用者用端末で OPAC を運用していますが、これは専用の端末 (図書館端末) でなければなりません。今回運用を開始する OPAC は、一般に利用されている TSS 端末を対象としたシステムです。

京都大学が、学術情報センターの目録所在情報サービスを導入して、目録データの入力を開始したのは1985年です。したがって、この OPAC システムでは、主として1985年以降に出版された和洋図書の学内所蔵分約18万件と、和洋雑誌の学内所蔵分約6万件の目録データを検索することができます。図書目録データの更新は毎日行いますの

で、日々の新しい所蔵を知ることができます。ただ、一部入力していない部局がありますので、カード目録も検索していただく必要がありますが、それらの部局も一部の処理の困難な言語を除いて順次入力を開始する予定です。

京都大学の大型計算機センターに接続できる TSS 端末であれば、たいいていの場合接続できます。附属図書館のホストコンピュータと研究室の TSS 端末との通信は、学内 LAN (Local Area Network) である KUINS (Kyoto University Integrated Information Network System) を利用します。検索システム用のソフトウェアは大型計算機センターと同じ FAIRS -I を使用しています。

利用申込みができるのは、本学の教職員、大学院学生及びそれらに準ずる方々です。詳細は附属図書館の参考調査掛 (2636) までお問合せ下さい。以下に、検索の概要を示します。

1. TSS 端末を起動する。
2. KUINS に接続する。(デジタル電話をダイヤルする)
3. 附属図書館 TSS オンライン目録検索システムに接続する。
4. 検索コマンドを入力する。

(例)

アンダーラインは利用者が入力するもの

```
OPAC :  
SEA TK トショカンガク          <キーワードで検索>  
58件見つかりました。  
OPAC :  
AND AK ウラタ                  <著者で二次検索>  
1件見つかりました。  
OUT 1                            <検索結果の簡略表示>  
目録検索 DB  
# 1  
書名/誌名: T  図書館学の創造  
著者/編者: A  裏田武夫著 . . .  
出版/創刊: Y  1987. 11  
所蔵事項: H   教育  87121462  
図      88084336  UL / 21 / ト 11 (開架)
```

5. 検索を終了する
6. TSS セッションが終了する。
7. KUINS 接続が自動的に終了する。
8. 端末とデジタル電話の接続を終了する。
9. 端末システムを終了する。

「京都大学図書目録作成電算化に伴う講習会」の報告

1)

附属図書館では、平成2年の2月～7月のあいだ、標題の講習会を8回にわたって実施した。

対象者は全学の図書系職員であり、申込希望者は81名、途中の異動などにより合計74名が修了した。

本学の図書館目録は、昭和60年(1985)から電算化を開始し、現在は本館ほか数部局で、学術情報センターに接続して、目録情報の登録を行っている。

平成2年1月には、附属図書館のホストコンピュータが新しくなり、処理能力が向上したので、108台のターミナルが本館および各部局に配置された。

今回の目録システム講習会は、これにともない、各目録業務担当者が円滑に目録情報登録を進められることを目的として、開催されたものである。

2)

講習会は1人あたり、1週間を単位として、概論を3時間、実習を10時間わりあてた。

概論では、学術情報センターおよび本学の目録システムの構造についての講義を行った。

実習では、要点の講義と実際にターミナルに向かっての作業とを組み合わせた。内容としては、[検索、登録、点検、修正]の一連の仕事を、自力で行えるようになることを、めざした。

実際の実習指導は、附属図書館の和洋目録情報掛員が担当した。受講者に対しては、おおむね1

対1で対応したため、きめ細かな説明が可能となり、この点が特に好評であった。

受講者は、実務担当者が大多数であり、質問も多数出された。

3)

ここで、受講者の感想をいくつか紹介することにより、講習会の雰囲気伝えておきたい。

「学術情報センターのシステムと本学のシステムとの関係がよく分からない」、「コマンドの使い方や用語が難しい」

これらは、カード式目録とは異なった概念を持つ、電算化システムへの戸惑いや不安の声と、とらえている。

一方で、「重複書誌を作らないことの大切さを認識した」、「新規に登録するのは大変な仕事である」など、目録情報を全国の大学図書館で共有しようとする、このシステムの理念への理解も得られた。

4)

今後は、各受講者が業務にあたって、講習会での成果を実地に活かされることを期待する。

平成2年9月26日

附属図書館情報管理課
和書目録情報掛長

奥典子

洋書目録情報掛長

谷口敏夫

秋季展示会「和漢書古典籍のさまざま」へのご案内

附属図書館では下記の要領で秋季展示会を開催します。

テーマ 「和漢書古典籍のさまざま」

期 間 : 平成2年11月27日(火)から12月7日(金)
(日曜日・月末休館日(11/30)を除く)

時 間 : 午前9時30分から午後4時30分

場 所 : 附属図書館展ホール(3F)

(一般公開・無料)

平成元年度 附属図書館利用実績統計

(対象期間：平成元年4月1日～平成2年3月31日)

蔵書数 713,626冊

(平成2年3月31日現在)

内 訳	和 書	462,867 冊	洋 書	250,759 冊	和・洋 比	65 : 35
-----	-----	-----------	-----	-----------	-------	---------

*開架図書 62,334 冊 (和 書) 6,155 冊 (洋 書) 67,489 冊 (計)

*雑誌タイトル数 17,835 種 (和雑誌：8,028 種 欧文雑誌：9,807 種)
※外国雑誌センター、工学部共通及び化学系雑誌等を含む。

開館延日数 265日

内 訳	平 日	221 日	土 曜 日	44 日	開館延時間数	2,888 時間
-----	-----	-------	-------	------	--------	----------

入館者数 613,864人

対前年度比：3.5 %増

内 訳	学 内 者 入 館		学 外 者 入 館		開館日一日当り	人
	入 館 機	マ ニ ュ ア ル	閲 覧	見 学		
	人	人	人	人	〃 一時間当り	213 人
	609,334	2,835	1,093	602	〃 一日当り最多	4,089 人

【注】 ・マニュアル：忘れてたり、紛失等による利用証不携帯者による入館。
・閲 覧：特別閲覧願 (学外者) 手続きによる入館。
・見 学：事前見学申請なしの見学者による入館。
尚、利用申請中の者及び学外者のうち国立大学共通閲覧証等による入館者数は含まれておらず、他にも入館機故障による記録漏れの箇所等は前年度及び今年度の記録を基に推測した数字である為、正確には記録された数の約一割強位の入館者があるものと推測される。

入庫検索者数 9,569人

対前年度比：2.2 %減

開館日一日当り	36 人	入館者比	1人/64人
---------	------	------	--------

【注】 ・2/5～3/31地下書庫工事：庫内検索にかなりの影響があった。

利用対象者数 22,969人

(平成元年9月30日現在)

※利用対象者数：利用証登録者数

内 訳	身 分	対 象 者 数
	教 官	3,258 人
職 員	1,918 人	
大学院生	4,425 人	
学 生	12,915 人	
そ の 他	453 人	

【注】

- ・教官には、名誉教授、定年退職した教官等を含む。
- ・職員には、定年退職した職員等を含む。
- ・大学院生には、研究生及び、研修員等を含む。
- ・学生には、研修生、聴講生及び医療技術短期大学生を含む。
- ・その他には、卒業生及び生協職員等を含む。

総利用冊数（総利用人数） 120,034 冊（53,353人）

学内・外利用構成比（冊） 91 : 9

対前年度比：6.1 %増

貸出利用冊数（貸出人数） 79,056 冊（42,972人）

※貸出対象者：本学学生及び教職員

対前年度比：2.5 %増

区 分	開架（冊）	書庫（冊）	計（冊）	比（：）	教官（冊）	職員（冊）	大学院生（冊）	学生（冊）	利用人数（人）
和 書	67,457	9,681	77,138	98 ： 2	3,013	1,633	15,032	57,460	42,972
洋 書	1,346	572	1,918		355	176	831	556	
計（冊）	68,803	10,253	79,056	開館日 一日当り 298 冊	3,368	1,809	15,863	58,016	一人一回 当り 1.8 冊
構成比（：）	87	13			4	2	20	73	

閲覧利用冊数（閲覧人数） 40,978 冊（10,381人）

対前年度比：13.8%増

※閲覧対象者：①本学学生及び教職員 ②学外者等

※閲覧：当日利用された閲覧証の記録を基に集計。自由接架による利用数は把握できない。学内利用者の普通図書の利用（一時貸出を含む）は貸出とした。

学内者閲覧利用冊数（人数） 29,829 冊（8,325 人）

対前年度比：9.5 %増

学内者対学外者利用比（冊数） 73 : 27

学外者閲覧利用冊数（人数） 11,149 冊（2,056 人）

対前年度比：27.2%増

【注】資料の利用単位は形態の違いには重みを加えず、すべて“1”冊とした。

※特殊資料：マイクロフィルム及びマイクロフィッシュ資料

区 分	利用冊数（冊）			学内・外比（：）	利用人数（人）		
	学内	学外	計		学内	学外	計
普通図書	—	4,179	4,179	—	—	788	788
貴重図書	2,793	3,637	6,430	43 : 57	158	217	375
特殊資料	123	116	239	51 : 49	52	19	71
参考図書	2,995	130	3,125	96 : 4	1,676	73	1,749
新 聞	12,792	520	13,312	96 : 4	1,432	154	1,586
雑 誌	11,126	2,567	13,693	81 : 19	5,007	805	5,812
計	29,829	11,149	40,978	73 : 27	8,325	2,056	10,381

施設利用	タイプ室	340 件	共同研究室	35 件	研究個室	135 件
------	------	-------	-------	------	------	-------

平成元年度蔵書統計

(平成2年3月31日現在)

部 局 名	純 増 加 数 (冊)			蔵 書 累 計 (冊)		
	和 書	洋 書	合 計	和 書	洋 書	合 計
附属図書館	9,309	13,250	22,559	462,786	250,556	713,342
文学部	5,934	4,634	10,568	424,776	274,322	699,098
教育学部	1,584	1,253	2,837	56,752	44,146	100,898
法学部	3,057	4,586	7,643	213,178	284,820	497,998
経済学部	3,927	3,248	7,175	184,842	184,236	369,078
理学部	714	2,725	3,439	39,831	186,986	226,817
医学部	-469	-2,842	-3,311	39,247	94,722	133,969
附属病院	28	23	51	11,686	22,406	34,092
薬学部	164	725	889	9,447	23,573	33,020
工学部	1,252	2,854	4,106	134,018	225,931	359,949
農学部	-264	-1,494	-1,758	154,239	132,459	286,698
附属農場	0	0	0	1,055	111	1,166
附属演習林	239	74	313	9,004	3,331	12,335
教養部	6,389	6,254	12,643	274,351	231,971	506,322
化学研究所	45	730	775	7,850	30,537	38,387
人文科学研究所	7,175	2,084	9,259	380,027	55,145	435,172
胸部疾患研究所	19	89	108	1,622	3,969	5,591
原子エネルギー研究所	45	261	306	4,624	11,550	16,174
木材研究所	56	108	164	4,917	4,712	9,629
食糧科学研究所	36	404	440	3,902	9,456	13,358
防災研究所	95	698	793	8,363	19,536	27,899
基礎物理学研究所	40	937	977	4,091	32,296	36,387
ウイルス研究所	23	91	114	436	9,263	9,699
経済研究所	899	989	1,888	34,251	26,521	60,772
数理解析研究所	135	1,867	2,002	5,679	61,151	66,830
原子炉実験所	32	1,474	1,506	13,685	27,214	40,899
霊長類研究所	651	395	1,046	3,843	8,631	12,474
東南アジア研究センター	575	2,240	2,815	13,042	41,904	54,946
大型計算機センター	345	615	960	3,059	7,413	10,472
放射線生物研究センター	0	0	0	209	1,305	1,514
超高層電波研究センター	0	34	34	454	2,117	2,631
ヘリオトロン核融合研究センター	16	125	141	883	2,162	3,045
環境保全センター	13	66	79	465	282	747
情報処理教育センター	0	24	24	223	486	709
医用高分子研究センター	8	108	116	213	248	461
アフリカ地域研究センター	487	775	1,262	1,892	4,189	6,081
本部	0	0	0	5,116	575	5,691
医療技術短期大学部	946	330	1,276	18,616	4,409	23,025
合 計	43,505	49,734	93,239	2,532,674	2,324,701	4,857,375

(注) 本部とは、庶務・経理・施設・学生各部及び保健診療所・保健管理センター

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 27, No. 2 (通巻98号) 1990年10月31日発行・編集：静脩編集委員会
(責任者 附属図書館事務部長) 発行：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・☎075-753-2613